

6 美術

(1) 第1学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

1年生の学習状況については、授業評価アンケート等から以下の特徴が見られた。

- ・ この教科に対して興味・関心があるか尋ねたところ、全体の92%の生徒が肯定的な回答をしており、多くの生徒が美術の授業や学習内容に対して意欲的である。
- ・ 授業進度や説明に対する評価についてはおおむね肯定的だが、進度について行けないと感じている6%の生徒は説明が分かりにくいと感じていた。

イ 学力の状況

1年生の美術の学力について、以下のような傾向が見られた。

- ・ 生徒の多くは、関心・意欲が高いが、制作に対しては苦手意識が高い傾向が見られる。
- ・ 鑑賞や制作の取組に対して、どう考えたのかを描き表すことに苦手意識の高い生徒が多い。
- ・ レタリングなどのデザイン表現などには積極的に取り組もうとする生徒が多い。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 道具の使用方法を覚えたり、色の塗り方で表現方法を変えられることができたり、丁寧に扱うことの必要性を定着できるようにする。
- ・ 美術作品を鑑賞することやつくることに親しみ、達成感を得られるようにする。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ カッターなどの刃物も含め、鉛筆や絵の具など素材に慣れさせる。
- ・ 定期考査への取組のポイントを具体的に示す。
- ・ 学習のポイントを意識して作業させ、できたときに評価し、達成感を得させる。
- ・ 興味・関心を高められるような題材や教材を準備する。
- ・ 話し方や教材に工夫し、分かりやすい説明をする。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 作品制作が多いため、特に話したり考えたりする活動が少ない。作品構想時に仲間同士で意見を出し合い、作品完成後には友人の鑑賞の時間をつくるなど時間をつくる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 作業中の個別指導で支援が必要な生徒に対して、十分な指導が行き届くようにする。
- ・ 全員の学習状況を確認して、特に理解が十分でない生徒への声掛けと支援を行う。基本的な作業でつまずきのある生徒に対して、机間指導を欠かさず、支援の必要な生徒を把握するようにする。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 教科書や資料集を活用し、補足のための配付資料も充実するなど授業内容を家庭でも確認できるようにする。
- ・ 定期考査の取組方のポイントを具体的に示す。

エ その他（ICT機器の活用等を含む）

- ・ 「基礎・基本」を身に付けさせるため、解説用の配付資料や映像資料による提示を工夫する。
- ・ 制作時に学習者用端末を使用することで参考資料の量を増やすことができるが、使用方法に対する注意が必要である。
- ・ 美術を愛好する心を養うため、制作した作品は必ず校内展示が行えるようにする。
- ・ 掲示物や展示物は授業に関連したものから選び、学習の一環となるようにする。

(2) 第2学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

2年生の学習状況について、定期考査や授業評価アンケート等から以下の特徴が見られた。

- ・鑑賞の授業に対して興味があり、制作に前向きに取り組む姿勢が多く見られる。
- ・授業進度がちょうど良いと感じている生徒が多く、制作課題に対して意欲的な姿勢が見られる。
- ・美術に対する興味・関心の低い生徒が19%と、1年生に比べると多くいる。

イ 学力の状況

2年生の美術の学力について、以下のような傾向が見られた。

- ・授業進度に満足している生徒が多くいる。
- ・手順通りに制作を進める生徒も多くいる。説明通りの制作になり、生徒各自が考えた表現の工夫が見えにくいとすることがある。

指示した内容が分かると、制作に集中して取り組める生徒が多いが、手だてが必要である。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・授業時間内での目標を意識し、作品の完成を目指すように作業させる。
- ・説明を聞く姿勢を作らせる。
- ・発想力が伸びる課題に取り組みせ、制作を楽しめるようにする。

イ 指導面（教師の課題）

- ・手順に沿った参考作品を提示しながら、その時間の目標を分かりやすく説明する。
- ・正確に写す練習や物の構造などについての理解を深める。
- ・個別指導を増やすとともに、全体へのアドバイスを加える時間も増やし、集中力を高める。
- ・定期考査に向けた家庭学習の具体的な方法を示す。
- ・学習のポイントを意識して作業させ、できたときに評価し、達成感を得させる。
- ・教材に工夫し、興味をもたせる。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・作品制作が多いため、特に話す活動が少ない。作品構想時に仲間同士で意見を出し合い、作品完成後には鑑賞の時間をつくるなど時間をつくる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・作業中の個別指導で支援が必要な生徒に対して、十分な指導が行き届くようにする。
- ・全員の学習状況を確認して、特に遅れや理解が十分でない生徒から声掛けと支援を行う。基本的な作業でつまずきのある生徒に対して、机間指導を欠かさず、支援の必要な生徒を把握するようにする。

ウ 家庭学習の定着

- ・教科書や資料集を活用し、補足のための配付資料も充実するなど授業内容を家庭でも確認できるようにする。
- ・定期考査の取組方のポイントを具体的に示す。

エ その他（ICT機器の活用等を含む）

- ・基礎・基本を身に付けさせるため、解説用の配付資料や映像資料による提示を工夫する。
- ・美術を愛好する心を養うため、制作した作品は必ず校内展示が行えるようにする。
- ・掲示物や展示物は授業に関連したものを選び、学習の一環となるようにする。

(3) 第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

3年生の学習状況について、定期考査や授業評価アンケート等から以下の特徴が見られた。

- ・ 作品制作に対する意欲は高く、授業進度もちょうど良いと感じている生徒が多い。
- ・ 生徒からの質問に対して丁寧に答えてくれていると感じている生徒が91%と多くいる。
- ・ 定期考査への取組は積極的になっている。
- ・ 鑑賞に興味をもって臨む生徒が多く、制作した作品の感想や他者評価をすることに意欲的である。
- ・ 対象物をよく見て描き表す力が定着してきている生徒が多く目立つ。

イ 学力の状況

3年生の美術の学力について以下のような傾向が見られた。

- ・ 表現方法を工夫して制作に取り組む生徒が多い。
- ・ 制作中に集中して作業に取り組む生徒が多く、クラス全体で雰囲気づくりができています。
- ・ 制作時に分からないことがあると戸惑ってしまう傾向がある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 自分なりに発想したことを観察して描く力を身に付ける。
- ・ 絵を描くことへの抵抗感をなくしていく。
- ・ 自分なりの発想をもとに作品を作ることができるようになる。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 作業の手順とポイントを明確に示して全体指導をする。
- ・ 机間巡視を行いながら、つまずきのある生徒がいらないか、注視し声掛けを行う。
- ・ 助言よりも取り組んでいる表現方法について褒めて伸ばしながら新しい表現を開拓させる。
- ・ 定期考査に向けた家庭学習の具体的な方法を示す。
- ・ 学習のポイントを意識して作業させ、できたときに評価し、達成感を得させる。
- ・ 興味・関心をもたせるために、説明や教材を工夫する。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・ 作品制作が多いため、特に話す活動が少ない。作品構想時に仲間同士で意見を出し合い、作品完成後には鑑賞の時間をつくるなど時間をつくる。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 作業中の個別指導で支援が必要な生徒に対して、十分な指導が行き届くようにする。
- ・ 全員の学習状況を確認して、特に遅れや理解が十分でない生徒から声掛けと支援を行う。

基本的な作業でつまずきのある生徒に対して、机間指導を欠かさず、支援の必要な生徒を把握するようにする。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 教科書や資料集を活用し、補足のための配付資料も充実するなど授業内容を家庭でも確認できるようにする。
- ・ 定期考査の取組方のポイントを具体的に示す。

エ その他（ICT機器の活用等を含む）

- ・ 基礎・基本を身に付けさせるため、解説用の配付資料や映像資料による提示を工夫する。
- ・ 美術を愛好する心を養うため、制作した作品は必ず校内展示が行えるようにする。
- ・ 掲示物や展示物は授業に関連したものを選び、学習の一環となるようにする。